

## 令和4年度 文学部比較文化学科 一般選抜（中期日程）講評

### I

#### 問1

分詞構文や関係代名詞の主語を正確に理解できるかどうかは解答のポイントであった。冒頭の *Waving to the cameras* については、「カメラが揺れる」と訳したものが非常に多かった。また、*second behind Greece, which traditionally leads the parade of nations* の “which” 以下が *Greece* を指すことを理解できていない解答も目立った。

#### 問2

シンプルな文章だが、それがどのような状況を示しているのかを正確に訳すには背景知識も必要とされる問題であった。解答には、*flee from home* の “flee” を “free” に取り違えて「自由」と理解し、この箇所を「家から自由になる」「家から出る」と訳出したものが目立った。また、この文章には “because of violence, hunger or just because you are different” というように *because* という語句が2度出てくるが、3つの理由が並列された形である。これを「他の人と異なるという理由による暴力や飢えのせいで」と訳出した解答も散見された。さらに、「飢え」を意味する *hunger* を「飢饉」と訳出した解答も目立った。

#### 問3

おおむね正解だった。不正解のなかでは、bと解答した者が多かった。

#### 問4

正解率は高かった。*child soldier* を「人身売買」「奴隷」などと訳した答案が散見されたが、子ども兵士の訳としては限定しすぎており減点対象となった。また、*without his parents* は直前の *made his way* にかかっており、両親と別れて一人で逃げたことを示すが、「両親と引き離されたために難民になった」とする解答も少数ながら見られた。

#### 問5

下線部は複数であることを示しているが、*refugees* の “s” が不在の解答がかなり多く、それらは減点とした。また、*more than 82 million* は「8,200万人以上」であるが、「以上」を欠いた解答も多く、同じく減点とした。

#### 問6

構文は理解できたが、挿入を含む箇所を訳出できない解答が予想より多かった。とくに、the most は挿入部を受けて「最多となる 9 人の選手は」となるが、「ほとんどは」「大半は」などと訳したものが多く見られた。また、シリアが紛争に襲われているという意味の plague を、「疫病」の蔓延と訳した解答も見られた。なお、「紛争」を「粉争」と誤記した解答が少なからずあったが、間違いやすい点なので注意してほしい。

#### 問 7

採点では、国名・都市名のどちらかが答えられれば正解としたが、それらを正確に表記できない解答が想定以上にあった。特にエリトリア（エリトリア）を「エルトリア」、テルアビブ（テルアヴィヴ）を「テルアヴァイブ／テルアバイブ」などと誤記した答案が見られた。

## II

#### 問 1

“steep” を “step” と取り違えて「階段」と訳した解答や、“slope” を「手すり」と間違えて訳出した解答が多数あった。また、“remain” 「留まる」と “remind” 「～に……を思い出させる」を混同して、「思い出させる」とした解答も多くあった。なかには “steep” を “sheep” に、“bare” を “bear” と読み違えて、「羊や熊」と書かれた答案もあった。強調構文であることを念頭に訳した答案はほとんどなかった。

#### 問 2

「環境移住」の理由を同段落から 3 つ答えさせる問題。下線部②の前の部分から、自然災害、異常気象、気候変動、下線部②の後の部分から、遠隔地のインフラ整備のコスト高、過剰農業による地力の減退、三峡ダム建設のための道路建設、干ばつ、温暖化、砂漠化、と選択肢が豊富にあったため、正答率は高かった。ただし、たとえば「気候変動」を「気候の変化」と直訳するなど、適切な訳語があてられていない答案もいくつかあった。環境問題の英語表現に普段から接してもらいたい。「日本語で」と指定してあるにも関わらず、英語で答えている答案があった。

#### 問 3

特になし。

#### 問 4

移住先が以前よりも便利になったと考えている人たちについて、その理由を同段落から2つ答えさせる問題である。生まれ故郷では病院が近くになかったために亡くなる人がいたが、今はわずか10分の所に病院があるという証言、自分が子どもの頃は1時間も歩かなければ学校に通えなかったが、自分の息子は居住地区にある学校に通っている、という証言があることから、「病院が近くにあること」、「学校が近くにあること」が解答となる。学校で朝食と昼食が出るということは付属的に説明されていることなので、便利になった理由としては弱く、減点した。また、residential compoundの意味が分からないため、距離的な利便性というこの段落の趣旨を理解できない解答が多かった。

#### 問5

「定められた労働時間」を意味する the fixed working hours の意味を取れていない解答が多かった。“fixed”を「修理」「直された」と理解したとみられる解答や、“fixed working”のみを切り出して「修理を行う仕事」と訳した解答もあった。また、「なかなか～できない」を意味する“find it hard ...”の意味を理解していない解答も多くみられた。“find”の部分のみに着目して「気づいている」「わかる」と訳した解答や、“hard”の部分のみに着目して「～することに熱心である」とした解答もみられた。さらに、「～に適応する」を意味する“adapt to”の用法を理解せず、「採用される」などと訳出した解答も散見された。

#### 問6

よくできていた。“to integration”を書いていない答案と、間違えて日本語訳している答案があった。

#### 問7

様々な解答があり、完答できた受験生は4割程度という印象であった。Chinese Communist Partyを訳せていない受験生が多くみられた。celebratesに引っ張られたのか、「パーティー」と訳していた解答もあった。povertyを「飢餓」と訳している受験生が意外と多かった。

#### 問8

ecologicalをeconomicと読み違えて訳出した答案も散見されたが、大半の答案が正答であった。